

活動名称 (40字以内)	誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくりえない旅行プラン@KYOTO～		
団体名等	東京大学三四郎会		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input checked="" type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input checked="" type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		2 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う		
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない		
参加資格等	観光に興味がある人。就労体験の経験の少ない前期課程の学生を特に歓迎する。		
活動期間	8月中下旬の6日間	主な活動予定場所	与謝野みらい創造委員会他 京都府内各所
目的	<p>本企画は、これまでの活動の成果も活かしながらより広い視野で観光都市京都の魅力・可能性について学び、東大生である自分たちが、他大学学生とも交流しながら地域における観光に対して何ができるのかを考える。また、その過程で深い洞察力や発想力、想像力を身に付けるプログラムである。Beforeコロナでは、日本においてはインバウンド観光を中心に観光業界がもたらす経済効果と、異文化理解や地域の魅力の再発見が注目され、少子高齢化や財政問題など課題が多い今の日本において、観光産業は大きなポテンシャルを秘めていると捉えられていた。しかしWithコロナでは、観光産業のリスクが顕在化し、業界そのものの崩壊の危機に直面している。とはいえ、従前構想されていた「観光産業の盛り上がり」の恩恵が有名史跡や都市部にかぎらず、自然・名産・伝統技術等のリソースを有している「ローカルエリア」にももたらされ、むしろインバウンドのリピーター観光客の来訪はこういった地方エリアにおいて増加していくという構造は、あらゆる行動様式が「密」から「疎」へ向かうピクトレンドにおいて維持されると考えられる。このことは、「地方」生活の特徴を備え、かつ京都市との交流が過去から存在する稀有な特徴を備えた地域であり、国内からの交流人口・関係人口の増に向けての取り組みも積極的である京都北部をフィールドとしている本企画で引き続き考えていきたいテーマである。また、2018年より交流を進めてきたフィールドで、新しい取り組みがはじまりつつあり、より取り組みを加速させていきたい。</p>		
具体的な内容 (800字程度)	<p>①事前研修プログラム ・オリエンテーション(参加学生の顔合わせ、問題意識や目標の設定・共有)を行う。 ・他の東京大学三四郎会企画と合同でマナー/スキル研修を行う。 ・コロナウイルス感染状況により、直前にオンライン実施に切り替える可能性があります。</p> <p>②業務体験 コロナ禍による中止を挟み、この4年間は観光都市・京都＝「京都市」という構図を対抗軸に見ながら、京都府が市町村と連携して実施している「もうひとつの京都」である、京都府下にフィールドを拡大して実施している。具体的には、京都府北部を舞台に、その地域で暮らす人々が地域活性化の観点で実践している取り組みに参加することを通じて、より個人・地域コミュニティ・コミュニティ間の連携という文脈で観光を考える。 その際、これまで本企画は与謝野町における地域団体へのインターン活動をベースとしていたが、同町の活動フィールドが、同団体を含む有志・企業と京都各地の大学生ネットワーク「京都Xキャンパ@与謝野」から、「与謝野みらい創造委員会」に発展したことに伴い、与謝野町出身者をはじめとする京都を中心にした関西の大学生との交流や切磋琢磨も含めた活動としてグレードアップしている。期間の前半は、地域活性化を担う各ステークホルダー(下を参照)を複数訪問し、多様なプレイヤーから京都北部の魅力と直面する課題について学ぶ。次に期間の後半には学生でグループを作り、旅行企画コンテストに参加する。ここでは受け入れ団体の下で、その活動に参画しながら前半で学んだことを生かすと共に、自らの発想力をフル回転させ、京都の外から来た学生として、具体的なかつ現実的な真新しい旅行プランや観光振興イベントの企画にチームで挑戦する。 企画で求められるものは、主催者から出題された極めて難易度の高い課題に答えるものであると同時に、1000年以上京都であった京都を支えてきた丹後の奥深い魅力に迫ることができ、観光立国の実現を掲げる我が国において目指すべき方向性を指し示すものでなければならない。最終日には京都への提案としてチーム別プレゼンテーションを行い、フィードバックを得る。活動は他大学学生を含む多様な方々と共同で行い、彼らとの交流や意見交換を通じて、さらに多くの刺激と学びを得ることができるだろう。</p> <p>※訪問先の例(コロナウイルス感染状況により、オンラインにより実施する場合があります) 【オリエンテーション】与謝野みらい創造委員会(与謝野町、京都市) 【公的機関: 施策の方針理解】与謝野町役場(町長への表敬訪問)、与謝野町観光協会 等 【地域におけるChange Maker】Tsuchica(京丹後市)、一般社団法人PLACE、安田織物、柴田織物、まさ農園、与謝野娘酒造、新設クラフトビール工場(いずれも与謝野町) 等 この他、検討に資する場所や人物を訪問するオプションも検討する。</p> <p>③事後プログラム 活動終了後に、他の東京大学三四郎会企画参加者も含めたプレゼン報告会を行う。 ・コロナウイルス感染状況により、直前にオンライン実施に切り替える可能性があります。</p>		
備考	<p>東京大学三四郎会は、「知の創造的摩擦プロジェクト」の共催や「ホームカミングデイ」への協力など、東京大学の活動にボランティアにかかわっている東京大学の若手卒業生によるネットワークである。構成員は約700人で、30代が中心となっている。三四郎会では2013年度より、企画実行のため組織された現役東大生による学生団体UTミライウォーカーとの協力のもと、インターン企画をミライウォーカープロジェクトとして実施している。(本企画は、このネットワークを通じ、主に東大卒業生が受け入れを担当する。)</p> <p>受け入れ先の窓口 与謝野みらい創造委員会(代表 塩野浩士) 〒629-2421 京都府与謝郡与謝野町金屋1917-1 TEL 0772-42-6288 (株式会社シオノ精工) 参加申請後、Zoomあるいは電話で順次面接を行う。</p>		
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)		その他*特記事項は以下に記載 与謝野町等による助成制度も活用し、実質負担額を抑える予定。 この他、各施設入場料等が必要。
	交通費	32,900 円	
	宿泊費	40,000 円	奨励金額 40,000円(予定)
	計	72,900 円	
ウェブサイト等	<p>【与謝野町について】 https://www.town.yosano.lg.jp/ (与謝野町役場) https://yosano-kankou.net/ (与謝野町観光協会) https://yosano-weaver.jp/ (YOSANO WEAVER ～織りなす人～) 【東京大学三四郎会】 http://www.facebook.com/todaisanshiro</p>		